1月26日(金)発売予定

サンパウロ 新刊案内

信仰万華鏡（カレイドスコープ）

——カトリック時代エッセー——

川村　信三　著

コロナ禍による 3 年間の活動自粛の中、歴史学者であり、カトリック司祭である著者は、何を思い、何を展望したのか。学問的視座に基づく緻密な洞察と、信仰に裏打ちされた深い思索の光は、殉教、宣教、異文化受容、エキュメニズム（教会一致）運動、宗教対話、科学と信仰、メディア、そして平和と、「万華鏡」のごとく煌めきを見せて広がって行く。バチカン図書館に眠る和紙に書かれた 17 世紀の古文書に、最新の科学技術の光を当て解明を図るなど、近年マスコミからも注目される上智大学教授、川村信三神父の初の時代エッセーである。本書は、週刊「カトリック新聞」に連載された「カトリック時代エッセー」に手を加えたものである。

著者略歴

川村 信三（かわむら しんぞう）

イエズス会司祭。上智大学文学部史学科教授。上智大学キリシタン文庫長。キリシタン文化研究会会長。日本カトリック司教協議会列聖推進委員会顧問。1958年生まれ。1983年、イエズス会入会。1992年、司祭叙階。1999 年、米国ジョージタウン大学より歴史学の博士号（Ph.D.）取得。著書に『キリシタン信徒組織の誕生と変容』（教文館）、『戦国宗教社会＝思想史―キリシタン事例からの考察』（知泉書館）、『二十一世紀キリスト教読本』（教友社）、『時のしるしを読み解いてー現代キリスト者の課題』（ドン・ボスコ社）、『キリシタン大名高山右近とその時代』（教文館）、共著に『超領域交流史の試み』（SUP 上智大学出版）、『キリスト教と寛容―中近世の日本とヨーロッパ』（慶應義塾大学出版会）、『ヨーロッパ中近世の兄弟会』（東京大学出版会）など多数。近年、東京大学の研究グループとの共同作業による、キリシタン時代の手書き書簡などの古文書を最新の科学技術を用いて多方面から調査・研究に従事。さらに、「日本・バチカンプロジェクト」（角川文化振興財団主催）の研究部門を統括。

• B6 • 316頁 • 並製 • 定価 1,980円（本体 1,800+税） • ISBN978-4-8056-3924-5　C0016